

No.241

2020年  
10月号

# さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

## 展示のご案内

展示期間 10月29日(木)まで

★メイン展示

## 『秋といえば…』

今月の展示は、「秋といえば…」と題し、

- ・ハロウィン
- ・走る
- ・食欲の秋

という3つのコーナーを用意して、みなさまをお待ちしています。

ぜひお立ち寄りください。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「だれだれ? ハロウィン」・「かぼちゃのだいおう」
- 「ペネロペのたのしいハロウィン」
- 「3時間台で完走するマラソン」・「陸王」
- 「子どもの走り方トレーニング」・「禁断のレシピ」
- 「しろくまちゃんのほっとけき」

★サブ展示

## 『ムーミン75周年』

今年は「ムーミン75周年」。愛読者も、原作を読んだことがない方も、75周年のこの機会にぜひ原点に立ち戻って、あらためてムーミンの世界に触れてみてください。



●サブ展示図書(抜粋)

- 「ムーミン谷のクリスマス」・「どこにもない国」
- 「ムーミン谷のおはなし」・「北欧」
- 「ムーミントロールと小さな滝」

第74回読書週間

## 「ラストページまで駆け抜けて」

10月27日から11月9日までの2週間は第74回読書週間です。

皆さまに素敵な本との出会いがありますように。



## 読んでみませんか？

### -新着図書のご案内-

(一般)

#### えにし屋春秋

あさのあつこ 著  
角川春樹事務所

人と人の縁を商う“えにし屋”。結びに、あるいは解きに、言うに言われぬ思いを抱えた人たちが訪れます。

えにし屋がとりもった浅草の油屋・利根屋の娘・お玉と本所随一の店の主人の出会い。前日いなくなったお玉の身代わりに奉公人・おまいが行くことに。人が本当に幸せになる縁を結んでくれるというえにし屋は、この縁をどうまとめるのか？

人情味あふれる展開でひき込まれていく物語。“えにし屋”という不思議な商売をはじめたきっかけも描かれ、続きが気になる作品です。

(山口)

(児童)

#### 地獄の歩き方

田村正彦 監修  
金の星社

「地獄を知っていますか？」誰でも一度は耳にしたことがあるけど、いまひとつよく分からない…。でも、もし本当にあるなら絶対に行きたくない!!

そんなあなたにぴったりの本。死後、行くことになるいろいろな地獄の名所を徹底紹介。その中で地獄行きになる条件や、あの世の特徴を詳しく教えてくれています。地獄に行かなくてもいいように過ごしたいですね。

(樫田)

(一般)

#### 京都の風呂敷屋さんが教える一生使える！ ふろしきの結び方、包み方50

山田悦子 著  
PHP研究所

三点を結ぶだけでできるシンプルバッグ。さらにそれをくるっとひっくり返せばしずく形の可愛いバッグのできあがり。

ふろしきの魅力は、包んだり巻いたり、運んだり、いろいろな方法で使うことができること。

エコバッグを持つことが増えた今、ふろしきを予備に持つことで様々なシーンで活躍すること間違いなし。

ふろしきの結び方、包み方を知って日常生活でも使ってみてください。

(岡村)

(児童)

#### まほうのハッピーハロウィン

石津ちひろ 文／岡田千晶 絵  
ブロンズ新社

みのりは、自分で作った衣装を着て、いとこのあきとと一緒にハロウィンまつりに参加。

しかし、はずかしがりやのあきとは、みんなと一緒に「トリックオアトリート」が言えません。そんなあきとのために、みのりはまほうのはねで一つだけまほうをかけます。

ハロウィンまつりの夜、一步ふみだす勇気を見つけた二人のおはなし。

ちょっとふしぎで、あたたかいハロウィンの夜を体験してみませんか。

(尾崎)

## ひみつの図書館

松澤 まり子

ある秋の晴れた日、いつものように図書館に行たくじらは最近の事情に疎くてマスクをしていなかった。友達のアジコさんに玄関のドアのところでばったり会ったので助かった。

「まあ、くじら、今はマスクしていないとこういう場所には入っちゃだめなのよ。知らないの？」

アジコさんは水中の中で泳ぐように手を光らせてくじらに言った。

「えっと…マスク？ボク持ってないんだけど…」

「あたしのをあげるわ。いつも予備も持っているのよ。まったくもう困ったものね。たまには新聞とかSNSでも見ないと、くじらったら。本ばかり読んでるんでしょ？」

アジコさんはやはりキラキラした白い大きなトートバッグからポーチのようなものを出し、さっさとこれまたキラキラした朱色のマスクをくじらにはい！と手渡した。

「なんだか派手だなあ」

「文句言わないの。貴重なサンゴの粉で作ったんだからっ」

「サンゴの粉？そんな聞いたことないよ」

「つべこべ言わないの。染めたんだからね。最近、染色教室にも通ってるのよ、あたし」

「ふうん。ありがとう。まあ助かるよ」

「あたしは子どもたちの絵本を返しにね、それにまた借りに来たのよ。子どもたちは絵本がないとだだこねちゃってねえ。じゃあね、気をつけてね。見つからないように。くじらってことに」

「アジコさんもアジだとわかんないようにあんまりキラキラしちゃだめだよ」

アジコさんはふふん、と笑ってカウンターに行き、キラキラしたバッグからキラキラした手で数冊の絵本を取り出していた。

マスクをつけたくじらは、アメリカ文学辺りの棚に向かおうと日本古典文学大系全集の棚の前を通りすぎようとした時だった。

「あのう…」

くじらはあれ？と思いながら、きょろきょろしたが誰もいないので、やっぱりロバート・B・パーカーをまた借りようかなあ、「初秋」いいしなあ、また読もうかなあ。まさに初秋の季節だし…などと考え歩こうとしたその時、また声が出た。

「あのう…」

ん？またどこからか女のひとの声がする。…変だな、とくじらは立ち止まった。

「昨日こそ早苗とりしかいつのまに稲葉そよぎて秋風のふく～…ってご存知ですか」

仕方がないのでくじらは声のした辺りの『日本古典文学大系』が並んでいる棚に向かって「知らないけど」と言ってみた。

「やっぱり…じゃあ、秋の野に道もまどひぬ松虫

の声のする方に宿やからまし、というのはご存知ですか」

「知らないなあ…まあ、でも、がっかりしないでよ。ボクはくじらなんだし」

「え？くじらさんなんですか？てっきりニンゲンかと思っていましたよ。ちゃんとマスクもしているし」

くじらは、まあ、こんなこともあるんだろうと思ひ、（ボクはくじらで人間に変身して図書館に来ちゃうくらいだし本もしゃべるんだろう）

「ボクは本が好きでたまにここに来るんだ。ちゃんと貸し出しカードも持ってるんだぜ」

と話し、ポケットからカードを古典文学大系の前に出して見せた。

「そうなんです。わたしの声を聞いてくれる人、いえ、くじらがいてくれてよかったです。えっと、じゃあこれは？…秋きぬと目にはさやかに見えねども風のおとにぞおどろかれぬる」

「知ってる！！」

くじらは思わず大きな声を出してしまった。

「し～！ご存知なんです。有名ですからね」

古典文学大系はため息をついた。

「わたしは『古今和歌集』のよみ人しらずなんです。小野小町とかさっき言った秋きぬ…の藤原敏行さんなんかはみなさんよく暗記とかしてるんですけど」

「うん、ボクも海の学校の国語の教科書で読んだよ。思い出したよ。有名だよね～」

「しかしですよ、古今和歌集の4割ほどはよみ人しらず、の作者なんです。わたしはもっと人々によみ人しらずの歌を知ってほしいんです」

「わかったよ。じゃあボク、もっと『古今和歌集』を読んでみるよ。いい？借りるよ」

「え～ほんとですか～嬉しいですよ。わたし一度でいいから海の中に行ってみたかったんです～」

そんなわけでくじらは『古今和歌集』を借り、もちろん『初秋』も借りた。ついでに『健康のためのウォーキング』や『男の料理』（雑誌）や落語のCDも借りた。

しかしねぐらに帰ってさあ、『初秋』を読もうとしたら『古今和歌集』が「わ～～。この窓からお魚さんがよく見えるんですね」とか「えっとあのう、そろそろわたしを読みませんか？」などと言うのでちょっとくじらは後悔しちゃいました。借りたのを。

よのなかはいづれかさしてわがならむゆきとまるをぞやどとさだめる

よみ人しらず『古今和歌集』巻第十八 雑歌下より

\*引用：『新日本古典文学大系 古今和歌集』（岩波書店）

## ～新着図書のご紹介～

### 一般図書



- 3 「シニア六法」 住田裕子  
 3 「マイナンバーカード・マイナポータル徹底活用丸分かりマニュアル」 日経クロステック  
 3 「避難所に行かない防災の教科書」 西野弘章  
 4 「武漢日記」 方方  
 4 「ブロックで学ぶ素粒子の世界」 ベン・スティル  
 5 「しょうがの料理」 有元葉子  
 6 「とりほん 飼い鳥のほんねがわかる本」 もねこ  
 6 「犬と猫 ペットたちの昭和・平成・令和」 小林照幸  
 7 「カミキィのくかいいい季節のおりがみ」カミキィ  
 9 「半沢直樹 アルルカンと道化師」 池井戸潤  
 9 「えにし屋春秋」 あさのあつこ  
 9 「推し、燃ゆ」 宇佐見りん  
 9 「灯台からの響き」 宮本輝  
 9 「雪月花」 北村薫  
 9 「降るがいい」 佐々木譲  
 9 「獣たちのコロシウム」 石田衣良  
 9 「銀閣の人」 門井慶喜  
 9 「ワカタケル」 池澤夏樹  
 9 「三度目の恋」 川上弘美  
 9 「今も未来も変わらない」 長嶋有  
 9 「半沢直樹 アルルカンと道化師」 池井戸潤  
 9 「数学者の夏」 藤本ひとみ  
 9 「彼女の名前は」 チョ ナムジュ  
 9 「トンネル」 ベルンハルト・ケラーマン  
 9 「レイラの最後の10分38秒」 エリフ・シャファク

※左側の数字は図書の分類を表しています。  
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学  
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

### 児童図書



- 「もっとよのなかルールブック」 高濱正伸  
 「パワーブック 世界を変えてやるチカラ」 クレア・サンダース  
 「さぐろう生物多様性 身近な生きものはなぜ消えた?」 岡崎務  
 「珪藻美術館」 奥修文  
 「脳のなかのびっくり事典」 こざきゆう  
 「めいたんていサムくん」 那須正幹  
 「神様のパッチワーク」 山本悦子  
 「とどけ、サルハシ!」 葦原かも  
 「ムーミン谷のおはなし」 トーベ・ヤンソン  
 「はりねずみともぐらのふうせんりょこう」 アリソン・アトリー

### 絵本



- 「あつかったらぬげばいい」 ヨシタケシンスケ  
 「だれかなあ?」 みやにしたつや  
 「あ」 たにかわしゅんたろう  
 「とりあえずまぢましよう」 五味太郎  
 「だれだれ?ハロウィン」 えがしらみちこ  
 「アンパンマンとみかづきまん」 やなせたかし  
 「虫メガネでさがしてみつけよう!キャッスル」 デイヴィッド・ロング  
 「しょうぼうしのくまさん」 フィービ・ウォージントン

★このほかにもたくさんのお書が入っております。  
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

### 10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 ■ は休館日  
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>  
 メールアドレス [tosyo@city.sukumo.lg.jp](mailto:tosyo@city.sukumo.lg.jp)